

Vol. 141 2016.10.19

理事長トーク Top Interview

マケドニア共和国・健育会の、
連携協定の調印式が行われました

医療法人社団 健育会 理事長 竹川節男

マケドニア共和国・健育会 研修協力に関する連携協定 調印
Signing Ceremony between Macedonia and Ken-Iku-K

2016年9月30日、竹川病院において「マケドニア共和国・健育会 研修協力に関する連携協定 調印式」が、マケドニア共和国 アンドリヤナ ツヴェトコビッチ大使、参議院議員 牧野たかお先生、外務省欧州局中東欧課、竹川病院・健育会本部、プレス等の出席の元に行われました。



2015年2月にマケドニア共和国 アンドリヤナ ツヴェトコビッチ大使が竹川病院を訪問されたことは、以前の理事長トークでご紹介しましたが、その時にご相談を受けた健育会グループにおけるマケドニア共和国の医師の研修が、様々な調整を経てようやく実現の運びとなり、今回の調印式を迎えることができました。

調印式の冒頭には、マケドニア共和国 アンドリヤナ ツヴェトコビッチ大使、そして今回の協定締結にご尽力いただいた参議院議員 牧野たかお先生、そして私からご挨拶しました。

マケドニア共和国 アンドリヤナ ツヴェトコビッチ 大使



皆様、本日は私にとってとても嬉しい日です。

マケドニア共和国は、医学にとっても力を入れています。2014年 ニコラ・グルエフスキー元首相が来日した際、安倍総理大臣にマケドニアと日本の新しい分野での協力の提案をいたしました。その時に、牧野たかお先生が外務大臣政務官として、サポートしてくださいました。そして健育会をご紹介いただきました。その後、私は約1年半前にこの竹川病院を訪問しましたが、非常にレベルの高い病院だと感じました。そして本日、マケドニア共和国の保健省と健育会グループの調印式が行うことができたのです。

この調印式を経て、今後、様々な分野で協力関係を築くことができ、そしてマケドニアの医師が日本に来て学ぶことができます。これはマケドニアの医師にとって、非常に有益なことです。私は在日マケドニア大使館の最初の大使として、こちらのプログラムに大変期待しています。

医療法人社団 健育会 竹川 節男 理事長



マケドニア共和国保健省と医療法人社団健育会との間で研修協力に関する連携協定の調印ができることを大変嬉しく思っております。2015年1月に牧野先生からのご紹介で外務省を通じて、マケドニア共和国の医師の研修を健育会で受け入れできないかをご相談があり、アンドリヤナ ツヴェトコビッチ大使に竹川病院の見学をご案内いたしました。

その後、今年の1月にリハビリテーションの研修を希望されている医師がいらっしゃるという話をマケドニア大使館よりご連絡いただきました。そして、竹川病院においてリハビリテーションの4週間の研修プログラムを計画し、研修の受け入れについて双方で打ち合わせを重ねて、本日、調印式に至りました。当院でのリハビリテーションの研修は回復期リハビリテーションセンター長の酒向正春医師が担当いたします。

協定の内容では双方で医療知識の共有や人材の交換などの研修プログラムも含まれています。まずは、今回の研修の受け入れをしっかりと行い、今後の日本とマケドニア共和国、双方の医療介護分野の架け橋となれればと考えております。

参議院議員 牧野 たかお 先生



今回の調印式が行われるまでには時間がかかり、いろんな方の努力でやっと実現したと感謝しております。外交の中では、国と国、政府と政府で物事を進めているわけですが、今回のように「民間の医療法人や企業」と「ある国の政府が望んでいること」を結びつけて双方の交流が始まっていくことは、簡単なことではないものですから、本日の調印式を迎えることができ、本当に良かったと感じています。

マケドニア共和国の皆さんから大きな期待が寄せられることと思います。一つ一つ積み上げていく形で、お互いの信頼関係を深めていながら医療の協力を積み上げていけたら非常に素晴らしいと思います。また、日本の外交実績にもつながりますので、是非とも今回の研修を成功させていただきたいと思っています。

未長く、マケドニア共和国と健育会の関係が続くことを祈念しております。



ご挨拶の後は、マケドニア語・日本語・英語、それぞれの言語での覚書にサインを行い、調印式は無事に終了いたしました。その後、お集まりいただいた皆様に、竹川病院のリハビリテーション室と実際に来日する医師が働くことになる2階病棟をご見学いただきました。

マケドニア共和国・健育会 研修協力に関する連携協定 調印式 Signing Ceremony between Macedonia and Kenyukai



健育会グループでは、EPAが始まる前の2007年から海外からの医療人材の受け入れを独自の取り組みとして行い、2008年に始まったEPAの取り組みでは、今まで、フィリピン、インドネシアから合計18名の看護師・介護士候補の方の受け入れを行っています。また昨年からは、日本語学校と連携し、中国人看護師の受け入れを始め、すでに10名の方が来日されています。今回、海外からの医師の研修受け入れは初めてとなりますが、これまで培ってきた経験も生かしつつ、私たちも勉強しながら有意義な研修となるようにしていきたいと考えています。

そして10月11日には、エレナプレゾヴスカ医師が竹川病院に着任され、研修が開始されました。エレナ医師は、マケドニア共和国の研究所で働かれている理学療法、リハビリテーションの専門医です。



私は、高齢者医療・介護は世界の中でも日本が進んでいると考えています。そして今回の研修プログラムは、その日本の中でもリハビリテーションの先端を担っている竹川病院の酒向医師を中心として行いますので、エレナ医師には日本のリハビリテーションの専門的な知識や技術について必ずや学んでいただけたと考えています。

また、アンドリヤナ ツヴェトコビッチ大使のお話にあったように、今回の協定では、今後の医療協力体制を念頭に置きつつ、医師に特化した研修プログラムや、医療経験と知識の交流を図るものなど、様々な協力関係を築いていくことができます。これを機会に私たち健育会グループがマケドニア共和国の高齢者医療の助けになるような、例えばマケドニア共和国での病院設立のお手伝いできるようなプロジェクトが始まればと期待しています。

現在は在オーストリア日本国大使館がマケドニア共和国の大使館を兼任している状況ですが、来年にはマケドニア共和国に日本国大使館が開設され、大使が赴任するとのことです。マケドニア共和国と日本の友好関係がますます深まっていく中で、健育会グループも医療介護分野において、その力の一助になればと願っています。

